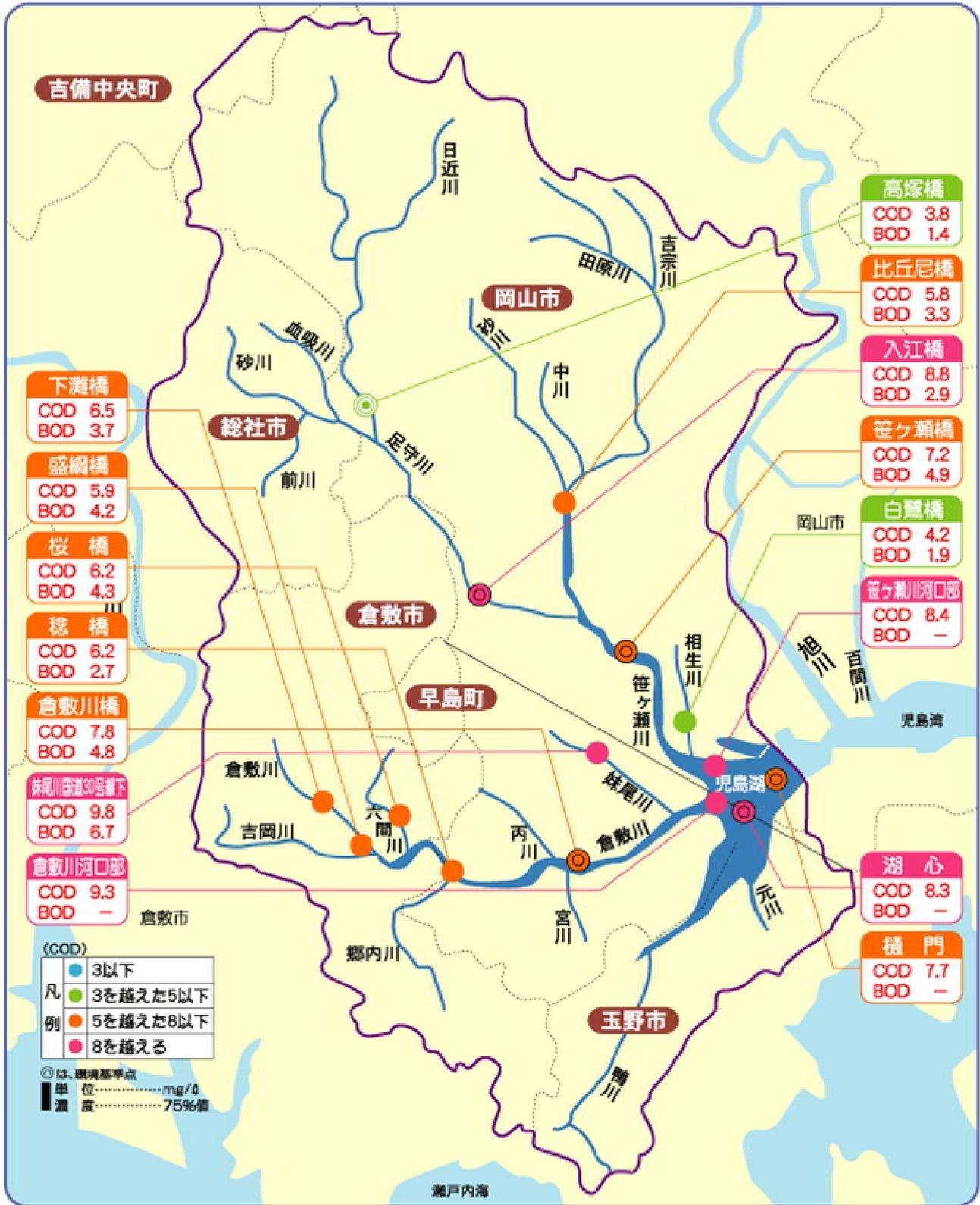


2 湖沼の概要

1) 概要

岡山県の概要							
	面積	約7,112km ²					
	人口	約195万人					
	世帯数	約692千世帯					
湖沼の概要		児島湖					
	面積	10.9km ²					
	集水域	543.7km ²					
	周囲						
	貯水量	2,607万m ³					
	最も深いところ	9m					
	特徴	児島湖は、農作物を塩害から守り、低湿地の排水を強化するため、昭和34年に児島湾を締め切って誕生した人造の淡水湖です。閉鎖性水域である児島湖は、湖水が入れ替わりにくい特性を持っており、また、流域の都市化や生活様式の変化が進んだことから、富栄養化や汚濁が問題となっておりました。児島湖の水質は近年、緩やかな改善傾向にあるものの、いまだに環境基準を上回っています。					
下水道施設の概要		児島湖流域における下水道計画については、立ち後れた地域の下水道整備を効率的、一体的に行い、生活環境の改善と児島湖の水質保全を図るため、流域内の大部分については流域下水道方式を採用し、放流先が児島湖であることから、事業当初から、窒素、リンの削減を含めた高度処理方式を取り入れています。また、流域下水道で効率的に整備出来ない箇所については単独公共下水道で整備している。					
各処理区、単独公共下水道の概要		児島湖流域下水道 児島湖処理区	岡山市単独公共下水道 芳賀佐山処理区	岡山市単独公共下水道 流通団地処理区	岡山市単独公共下水道 足守処理区	倉敷市単独公共下水道 倉敷処理区	総社市単独公共下水道 山手処理区
		岡山市・倉敷市・玉野市の一部及び早島町の全域を計画区域とし、平成元年3月から供用を開始しました。処理区域内人口は347.6千人で普及率は56.4%となっています。	岡山市芳賀、佐山地区を処理区域とし、昭和53年10月から供用を開始しました。処理区域内人口は5.3千人で、普及率は92%となっています。	岡山県総合流通センターを処理区域とし、昭和59年6月から供用を開始しました。処理区域内人口(昼間人口)は9.0千人で、普及率は100%となっています。	岡山市足守を処理区域とし、平成16年4月から供用を開始しました。処理区域内人口は3.6千人で、普及率は10%となっています。	倉敷市中心部を処理区域とし、昭和35年10月から供用を開始しました。処理区域内人口は10.4千人で、普及率は99%となっています。	総社市山手地区を処理区域とし、昭和60年3月から供用を開始しました。処理区域内人口は4.2千人で、普及率は71%となっています。
	特徴	下水道の終末処理場が児島湖流域内にあり、その放流水が流域内放流となる処理区は上記の通りである。倉敷処理区については平成20年度に流域下水道への編入が予定されており、また、流域外へ放流している岡山市旭西処理区からも順次編入しており平成24年度には旭西全量が流域下水道に編入する予定であり、児島湖流域下水道が果たす役割が非常に大きい。					

2) 児島湖流域のCOD・BOD(平成17年度)

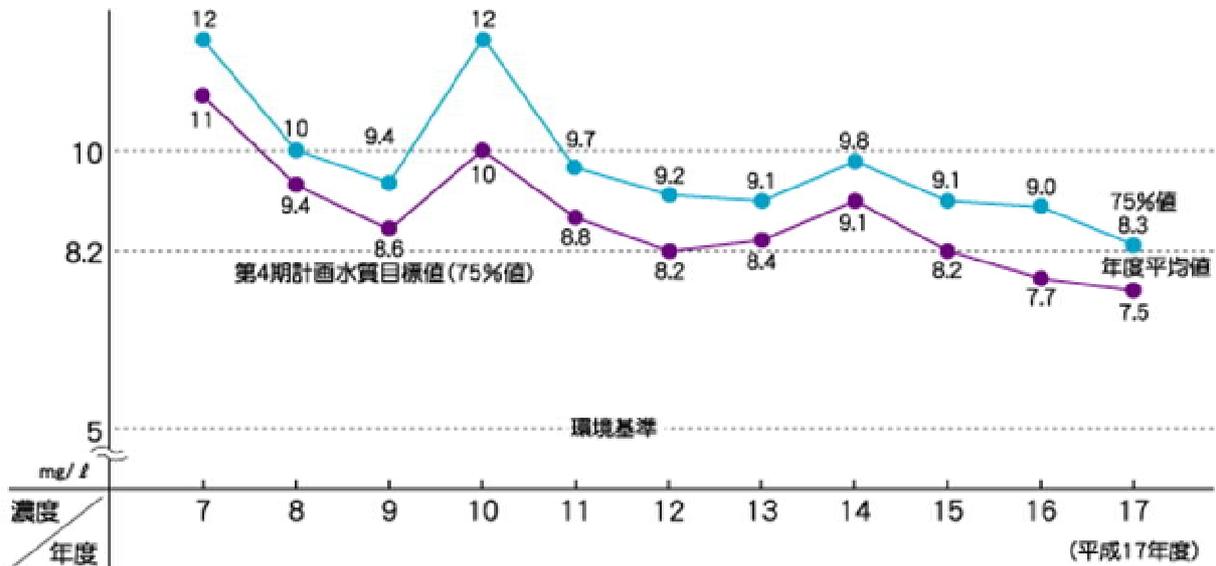


3) 湖水の経年変化

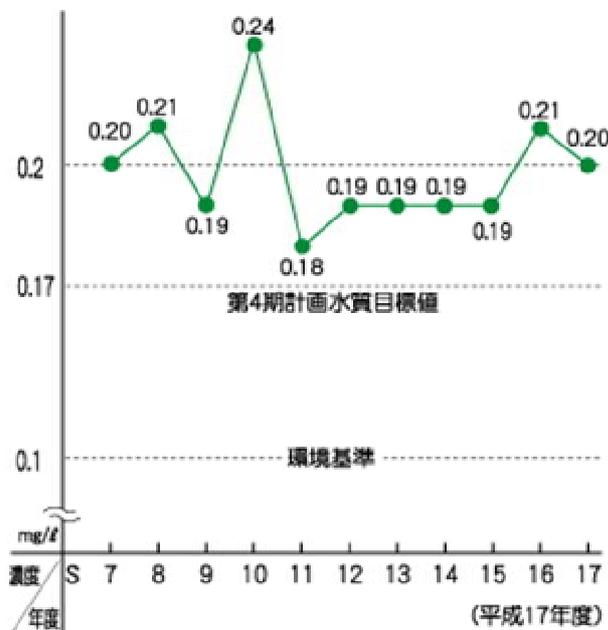
児島湖の水質(COD:化学的酸素要求量)は環境基準(5mg/)を上回っていますが、ゆるやかな改善傾向にあります。また、富栄養化の目安ともいえる全窒素(T-N)及び全りん(T-P)についても環境基準(全窒素:1mg/、全りん:0.1mg/)を上回っていますが、全窒素は改善傾向にあります。

湖水

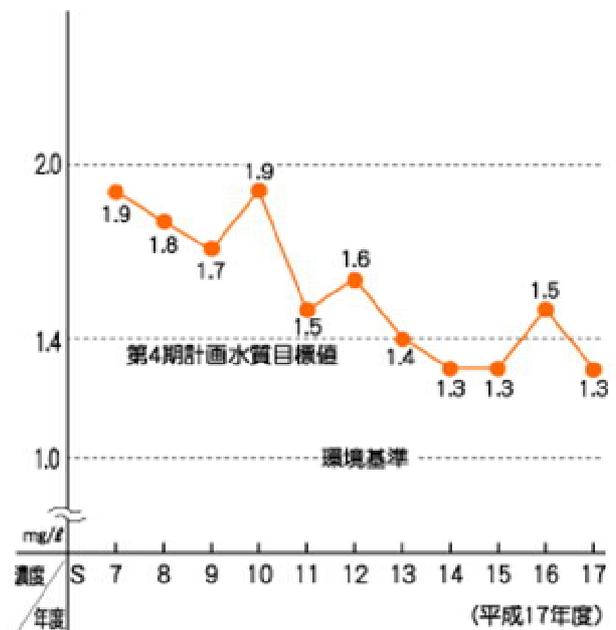
COD濃度の経年変化



全リン濃度の経年変化 (湖心の年度平均値)



全窒素濃度の経年変化 (湖心の年度平均値)



4) 流入河川の状況

河川的环境基準はBODであり、流入河川にはCODの環境基準は設定されていませんが、児島湖の環境基準を準用して比較すると次のとおりです。

全窒素、全りんは経年的には減少傾向にあるものの、倉敷川は湖内や笹ヶ瀬川よりも高いことから、倉敷川からの負荷が大きいと考えられます。

流入河川

